

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

I 前期基本計画（平成 29 年度～令和 3 年度）

1 これまでの主な取組実績

(1) 施策の大綱 1-1 自然環境の保全と景観の向上

主要施策	主な取組	実績
生物多様性の確保・保全	森林ボランティアの育成・支援	・木材粉碎機（チップパー）の貸し出しなどで、森林ボランティア活動を支援した。
	放置竹林の整備と間伐の促進	・森の力再生事業（県）の実施箇所の調整などを実施した。 ・優良林育成事業を行う森林所有者に対し補助金を交付。
	農地の持つ多面的な機能の維持・保全	・農業振興地域整備計画に基づく取組と計画の定期見直しを実施した。 ・耕作放棄地の実態調査を実施した。
	河川水質の保全と監視（水質類型判定、河川水質の調査結果の情報公開）	・河川水質調査を実施し、広報・ホームページによる調査結果の公表を行った。
	林業者及び野生鳥獣狩猟者の後継者の育成	・沼津地区林業研究会や伊豆流域林業活性化センター等、5 団体へ負担金を支出。 ・農林業者、捕獲従事者、鳥獣被害防止対策協議会へ報償や活動費補助等による助成を行った。
	自然観察・環境学習の実施	・国土交通省と共催で市内小学生を対象に狩野川水生生物観察会を開催し、河川の状態を把握するとともに、生息する虫を中心とした水生生物等を確認することにより、水質の変遷を確認した。 【実績（参加者数）】 H29：13 人、H30：31 人、R1：23 人
	単独浄化槽から合併浄化槽への置換の促進	・単独浄化槽から合併浄化槽への置換の促進（補助金）を行った。 【交付実績】 H29：12 基、H30：21 基、R1：7 基、R2：12 基、R3：14 基
その他	下水道への接続の推進	・R1 年度は公共下水道へ 12,595 戸を接続。未接続者に対しアンケートを実施した。 ・R2 年度は、国・県の汚水処理施設整備構想の方針に基づき、R8 年度までに下水道未普及地域の整備を完成するため、「PPP/PFI（官民連携手法）」を導入し、「住環境の向上」「公共用水域の水質保全」の実現に向けた管路施設詳細設計業務及び管路施設整備工事に着手した。
		・間伐、下刈り、皆伐再造林、枝打ちによる森林整備を実施し、森林内に太陽光を取り込み多様な下層植生の育成を促した。 【実績】 H30：60.09ha

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
伊豆の国風景づくりの推進	景観に配慮したまちづくりの推進 (景観重点整備地区の指定数の増加、屋外広告物条例の運用、電線の地中化等)	・良好な景観を図るため、「伊豆の国市屋外広告物条例」を H29 年 4 月に施行。 ・市屋外広告物条例の施行に伴い、県条例には適合していたが、市条例には適合しなくなった既存不適格の広告物 261 件に対し改修指導を行い、233 件が改修された。(R3 年 6 月時点) ・オリンピック開催に向けて県と伊豆半島 13 市町が協力し、主要路線沿いに設置されている無許可の野立て違反看板に対する是正指導を行い、市内 256 件のうち 241 件が改修された。(R3 年 6 月時点) ・景観重点整備地区の候補地区である江川邸周辺の区において、景観に対する理解促進のための説明会や住民意向アンケートを実施。 ・景観、自然環境及び安全安心な生活環境の保全と再生可能エネルギー事業との調和を図るため、「伊豆の国市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」を R1 年 7 月に施行。 ・R3 年度に、景観まちづくり啓発事業として、市内小学生を対象とした「景観まちづくり学習」を実施。
おいしい水が飲めるまちの推進	水源の保護	・水質検査を定期的実施した。
	おいしくて安い水道水キャンペーンの実施	・市内 16 水系において、おいしい水の要件である 7 項目の水質検査を実施し、その結果を市 HP で公表した。
	おいしい水や水源の保護、節水に関する環境教育の実施	・田中山地区給水区域の拡張に伴い、安全でおいしい飲料水の安定供給が行えるよう、田中山中継ポンプ場改良整備を実施。 ・毎年度、小学生の水道施設見学を受け入れ、節水を呼び掛けた。
	水質向上のための設備導入	・R1 年度に宗光寺水系の急速ろ過器前に濁度計を設置した。
温泉を大切に	源泉の保護 泉質の維持	・源泉保護や継承を目的とした限りある資源を有効活用するため、伊豆の国市温泉保護対策基金条例に基づき 10,000,000 円の基金積立を実施。(H28 年度まで)
	揚湯量の維持	・毎年の揚湯量を 72 万ト以下となるよう自主規制を行った。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

(2) 施策の大綱 1-2 快適な生活環境の創造

主要施策	主な取組	実績
生活環境の改善	不法投棄監視体制の充実・強化 (定期パトロール体制、通報網の整備、監視カメラの設置)	・廃棄物の不法投棄を未然に防ぐため、不法投棄禁止看板を 19 枚配布し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図った。 ・不法投棄防止パトロールを実施した。 【実施実績】 R1 : 19 回、R2 : 12 回
	地域住民による清掃活動支援 (年 3 回の一斉清掃)	・環境美化の日に各地区で行う清掃に対し、ごみ回収の実施等により各地区の活動を支援。 ・公衆衛生の向上を図るため、衛生害虫駆除用薬剤を配布。 【配布実績】 H30 : 31 地区、R1 : 32 地区、R2 : 30 地区
	その他	・市給食センターや家庭からの廃食用油を利用してリサイクル石鹸を製造する団体を支援した。 【実績 (廃油量)】 R2 : 4250 ・畜犬の飼い主に狂犬病予防注射を適正に行わせ、公衆衛生の向上及び人と動物の共生する社会を築くため、市内 26 か所で集合注射を実施した。 【実績】 H29 : 711 頭、H30 : 694 頭、R1 : 625 頭 ・飼い主がいない猫の繁殖を防止するため、飼い主のいない猫の不妊手術を行う者に対して補助金を交付した。 【交付実績】 H29 : 451 千円、H30 : 433 千円、R1 : 584 千円、R2 : 135 頭 595 千円、R3 : 111 頭 463 千円 ・動物愛護思想の向上と適正な飼育管理の推進を図るため、窓口で犬猫に関する情報交換の場として伝言板を設置。 ・1 人 1 日あたりのごみ排出量の削減に向けて、広報や出前講座による啓発を実施。
花と緑の潤いのまちづくり	幹線道路、駅、バス停、主要な公共施設等へのプランター等の設置 地域団体等による花壇づくりの促進	・花咲く伊豆の国推進協議会を設立。 ・H29 年度から、「花咲く伊豆の国マーガレット街道花壇 (珍野花壇～大門橋)」を整備した。 【整備実績】 H30 : 国道 136 号南條菰山反射炉入り口 R1 : 国道 414 号沿い白山堂大門橋付近 R2 : 菰山時代劇場北側 ・R2 年度は、我が家の花自慢「一家一花運動」を実施。花咲く伊豆の国推進協議会会員及び関係団体等 15 団体が 1,147 株を購入。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
花と緑の潤いのまちづくり	花に関するイベントの開催	・花と緑にあふれる美しいまちづくりを推進するため、花咲く伊豆の国推進協議会により各種緑化イベントを実施した。 【観覧者数（花咲く伊豆の国フェア）】 H29：約 9,200 人、H30：約 10,100 人 【参加者数（花飾り教室）】 H29：年 2 回 205 人、H30：年 2 回 200 人、R1：年 2 回 83 人、R2：年 1 回 50 人 【参加者数（楽しい花壇づくり講座）】 H30：72 人 【参加者数（花壇づくり基礎研修会）】 R1：年 5 回 69 人、R2：年 4 回 71 人 【応募者数（花・緑コンクール）】 H29：3 団体応募、H30：3 団体応募、R1：8 団体・個人 3 人応募、R2：13 団体・個人 4 人応募
	花き緑化活動団体への支援	・環境基金を活用して、市内公共花壇の散水栓設置工事を実施した。 ・花咲く伊豆の国推進協議会に交付金を交付。 ・伊豆の国市花の会に補助金を交付。 ・花き緑化団体に花苗を支給した。
廃棄物の減量・再資源化・適正処理	ごみ減量・資源化の推進（ごみの有料化の継続、マイバック運動等）	・資源ごみ回収登録団体に対し、資源ごみの回収量に応じた報奨金を交付した。 【実績】 R1：40 団体 328.6 トン、R2：35 団体 262.3 トン、R3：32 団体 244.2 トン ・市内全地区へのごみ分別説明会を実施。 【実績（参加者数）】 H30：74 会場 2,284 人 ・R1 年度は、出前講座 2 回、リサイクルイベント 1 回開催した。 ・円滑なごみ収集及び運搬を実施するため、ごみ集積所の設置数を増やした。 【実績（新設数）】 H30：6 件、R1：2 件
	生ごみ資源化の推進（資源循環センター農土香による堆肥化、製品の販路拡大）と、農土香事業の検証及び拡大についての検討	・家庭用生ごみ処理機購入者に対する補助金を交付。 【交付実績】 H29：8 件、H30：16 件、R1：10 件、R2：12 件、R3：11 件 ・食品残渣や剪定枝を原料とする未利用バイオマスの搬入量を増やした。 【実績】 H29：1,40 トン、H30：1,467 トン、R2：1,360 トン、R3：1400 トン

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
廃棄物の減量・再資源化・適正処理	不用品活用バンクの推進	一般家庭において不要となった生活用品が廃棄物となることを抑制し、不用品が適正に循環的な利用が行われることを促進するため、広報を通じてリユースの促進を図った。 【実績（不用品活用バンク成立件数）】 H29：36 件、H30：42 件、R1：45 件、R2：63 件
	小・中学校における環境教育	市内小学校の施設見学受入を行った。 【受入実績】 R1：4 校、R2：4 校
低炭素都市の形成	温室効果ガス排出量の削減（削減目標の設定、削減量の算出チェック）	温室効果ガス排出量の削減するため、目標値を定め、毎年進行管理を行っている。 【実績（温室効果ガス排出量）】 H27：7,423 トン、H29：7,385 トン、H30：6,909 トン、R1：6,435 トン、R2：6,084 トン、R3：6,135.3 トン
	エコアクション 21 認証取得の拡大（民間事業者への支援）	- エコアクション 21 普及説明会及び省エネ講習会を開催した。 - エコアクション 21 取得事業者支援補助金の実施。 【交付実績】 H30：2 件、R1：1 件
	公共施設等における更新時期となった設備を省エネ設備（照明、空調、給湯等）に転換	市内体育館、学校等の照明を更新時期に合わせ LED 化により省エネを図った。 【実績】 H30：長岡体育館柔剣道場 R1：菰山体育館、菰山運動公園多目的グラウンド、大仁小学校グラウンド R2：大仁中グラウンド、長岡中グラウンド、菰山中グラウンド、長岡南小グラウンド、大仁体育館、長岡体育館 R3：中央図書館
	新エネルギー設備整備に向けた支援の継続	住宅用新エネルギー機器導入補助制度を設け、市民への普及を行った。 【交付実績】 H29：45 件、H30：43 件、R3：62 件
	公用車（保有車）の低公害車への切り替えの取組	【実績】 H29：小型貨物 3 台、軽自動車 5 台 H30：普通車 1 台、軽自動車 4 台購入 R1：軽自動車 4 台購入 R2：軽自動車 2 台購入
	鉄道駅と公共交通（路線バス・タクシー）の繋ぎ目のない接続による利便性の向上 より使いやすい自主運行バスの再編・充実	- 市を南北に貫く伊豆箱根鉄道駿豆線を基幹公共交通軸として、その 5 つの駅を交通結節点と位置付け、既存のバス路線などを、これらの駅に接続させることによって、地域公共交通ネットワークを形成する。 - 自主運行バスは、H29 年度から田京駅、R2 年度から大仁駅への接続が加わり、2 路線 3 駅となった。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
低炭素都市の形成	鉄道駅と公共交通（路線バス・タクシー）の繋ぎ目のない接続による利便性の向上	・予約型乗合タクシーは、R1 年度に立花 G o! が運行開始し、R2 年度に 2 路線 2 駅となった。 ・H30 年度から自主運行バス 葦山循環線と千代田線を統合した新路線（千代田団地・葦山駅・奈古谷温泉口線）の運行を開始。
	より使いやすい自主運行バスの再編・充実 路線バスと電車の利用促進	・高齢者に向けバス鉄道利用券を配布。

2 指標

指標	基準値	目標値	最終実績値
水質基準（BOD）の AA 達成河川数の増加	11 地点	13 地点	20 地点
伊豆の国市全域における CO ₂ の排出量の削減	36.4 万トﾝ	35.3 万トﾝ	27.7 万トﾝ
1 人 1 日あたりごみ排出量の削減	943.0g	931.6g	940.1g

3 前期基本計画の取組に対する総合計画審議会の意見

(1) 令和 3 年度

- ・森林の水源涵養機能保護のため、太陽光パネルについても行政で指導してほしい。
- ・自然環境の魅力的なまちだが、交通が危ないため、子どもが外出しにくい。子どもが安全に移動できる道路、自由に外遊びできる環境の整備が必要。
- ・自転車道路の整備を進めてほしい。結果、子どもの安全な移動に繋がる。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

Ⅱ 後期基本計画（令和 4 年度～令和 7 年度）

1 これまでの主な取組実績（～令和 5 年度）

(1) 政策の柱 1-1 自然と共生するふるさとづくり

主要施策	重点取組	実績
森林保全・河川活用の推進	森林環境整備促進事業	・R4 年度は、市有林にてモデル間伐を実施。 ・R5 年度は、森林病虫害対策として森林環境整備事業費補助金を創設。 【交付実績】 R5：6 件 706,900 円 ・R6 年 1 月森林経営管理制度全体計画を策定。
	水辺空間の活用	・狩野川の千歳橋下流と大仁橋上流にて、水生生物観察会を開催。指標生物の観察による水質状況の確認、参加者への自然環境保全に対する意識啓発を図った。 【実績（参加者数）】 R4：小学生 36 人 R5：小学生 42 人（保護者を含めて 79 人）
	かわまちづくり公園の整備	・Park-PFI 制度により、R5 年 9 月に公園整備が完了。 ・R5 年 10 月の供用開始以降は、公園の指定管理者の(株)JMやオフロードコースの指定管理者であるメリダジャパン(株)と、毎月定例の打合せを実施し、適正な公園管理と、賑わい創出のためのイベント開催等を積極的に行った。
脱炭素社会に向けた取組の推進	地球温暖化対策の推進、再生可能エネルギーの普及啓発	・住宅用新エネルギー機器等導入事業費補助金を交付し、家庭における太陽光発電設備の導入等、再生可能エネルギーの利用促進を図った。 ・R5 年度からは、補助対象にクリーンエネルギー自動車の購入を拡充し、更なる市民の取組を促進した。 【交付実績】 R4：62 件 2,940,000 円、R5：137 件 6,620,000 円 ・R6 年 1 月に、鈴与商事(株)と PPA 方式による電力購入契約を締結し、大仁中学校への太陽光発電設備の導入に向けて取組を進めた。
脱炭素社会に向けた取組の推進	地球温暖化対策の推進、再生可能エネルギーの普及啓発	・R6 年 3 月に、第 2 次伊豆の国市環境基本計画、第 2 次伊豆の国市地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）及び伊豆の国市気候変動適応計画を策定した。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

主要施策	重点取組	実績
脱炭素社会に向けた取組の推進	脱炭素社会に向けた取組	子どもたちへの地球温暖化等の環境問題への意識啓発を図り、家庭と連携した取組を推進するため、体験型の環境教育プログラム（アース・キッズチャレンジ）を市内小学校で実施した。 【実績（参加校）】 R4：2校、R5：2校

(2) 政策の柱 1-2 魅力ある景観形成の推進

主要施策	重点取組	実績
自然環境を活かした空間の形成	（再掲） かわまちづくり公園の整備	（略）
	花いっぱいの景観づくり	- 地域住民等による地域花壇等の整備を支援するため、市内の緑化に貢献している団体に対し、花苗等の緑化資材を支給。 【支給実績】 R4：38 団体に対し、11,359 株の花苗を支給 R5：43 団体に対し、約 12,922 株の花苗を支給 - グリーンバンクの実施する花の種・球根・緑化木の定期配布事業等により団体等の緑化活動を支援。 【実績（定期配布事業）】 R4：秋配布は 1,185ml・球根 6,400 個、春配布は 3,620ml・球根 5,850 個・緑化木 59 本 R5：秋配布は種子 1,415ml、球根 8,100 個、春配布は種子 2,570ml、球根 7,900 個、緑化木 89 本 【実績（園での花育教室）】 R4：5 園、R6：6 園 【実績（グループ支援事業）】 R4：緑化グループ支援 3 団体、芝生化支援 1 校 R5：緑化グループ支援 1 団体、芝生化支援 1 校 - 花咲く伊豆の国推進協議会を主体とした緑化関連イベント（花・緑コンクールや花飾り教室、花咲く伊豆の国フェア、ワークショップ等）の開催、おもてなし花壇、伊豆長岡温泉場通り花飾り等の整備により、花と緑にあふれる美しいまちづくりを推進した。 【実績（花飾り教室）】 R4：秋（10 月）開催 39 人、春（2 月）開催 66 人 R5：秋（11 月）開催 80 人、春（3 月）開催 80 人
自然環境を活かした空間の形成	源氏山公園の整備	- R4 年度は、急傾斜地対策工事を実施。 - 令和 5 年度は、県が歩道改良工事を実施し、R6 年 2 月よりバスレーンの供用が開始された。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

(3) 政策の柱 1-3 快適な生活環境の推進

主要施策	重点取組	実績
住みよい生活環境の推進	公害等への対策	河川水質調査及び自動車騒音の常時監視を実施し、結果について関係各課と情報共有を図った。また、河川水質調査結果を広報・ホームページにて公表した。
	下水道未普及地域の解消	- R4 年度は、官民連携による下水道整備を実施し、江間地区の一部、田京地区、原木地区の一部の供用を開始した。 - R5 年度も、官民連携による下水道整備を実施し、宗光寺地区の一部、原木地区の一部の供用を開始した。
	動物愛護の推進	- 猫の生息数増加を抑制することにより、迷惑等を防止し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、飼い主のいない猫の不妊手術への助成を行った。 【交付実績】 R4 : 164 匹、R5 : 156 匹 - R4 年度は、動物保護協会の交付金を利用したモデル事業を実施し、19 匹の猫の不妊手術を実施。 - R4 年度は、菰山支所に、R5 年度は伊豆長岡庁舎に、新たにポッチとニャンチ愛の伝言板を設置。
資源循環の推進	焼却施設等解体事業	R5 年度より、長岡清掃センターの解体撤去工事を開始した。
	長岡最終処分場の再利用	地元区及び地権者に対し、長岡最終処分場及びその排水処理施設を廃止できない現状と、今後の方針について説明会等を実施。
	資源化施設の集約化	資源化施設の集約化により、ごみの搬出場所が遠くなるなど、利便性が悪くなる地区があるため、説明会を実施し、可燃ごみ集積所での資源ごみ回収について説明するとともに、回収方法変更の意向を確認するため、アンケートを実施した。
	伊豆の国市斎場におけるペット火葬方法の検討	R4 年度の利用者アンケートの結果、個別火葬・合同火葬の選択制を望む声があったため、ペットの個別火葬を導入した。
	適正な廃棄物処理	R4 年度は、新ごみ処理施設稼働に伴うごみの出し方地区説明会を実施。市内 72 会場で 30 日間実施し、1,811 名（男性 822 名、女性 989 名）の市民が参加した。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

主要施策	重点取組	実績
資源循環の推進	適正な廃棄物処理	・ R5 年度は、大仁小学校からの葦山リサイクルプラザ施設見学受け入れを行った。 ・ 市民へのごみ分別の周知の一環として、LINE によるごみ分別検索システム等の運用を開始。新たにごみの種類ごとに分別方法をチャット形式で調べる機能や地区ごとの各ごみ出しの日の前日にお知らせするセグメント配信機能等を実装した。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

2 指標

指標	基準値	最新実績値	目標値
市全域における二酸化炭素の排出量	298 千 ^ト	269 千 ^ト	230.1 千 ^ト
景観まちづくり学習の実施回数	1 回	3 回	2 回以上
市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量	932g	920g	932g

3 後期基本計画の取組に対する総合計画審議会の意見

(1) 令和 4 年度

- ・新ゴミ処理施設の稼働に伴う持込方法の変更等の地区説明会を実施しているが、参加者数が少ないと感じているので、利用方法や周知方法を丁寧に行ってもらいたい。
- ・狩野川の問題は、中流域である伊豆の国市だけががんばっても解決できる問題ではないので、上流である山間地域の環境を守っていく必要があると思う。

(2) 令和 5 年度

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

Ⅲ 市民アンケートの結果

1 設問

第2次伊豆の国市計画に基づき、市が行っている取組に関して、普段の暮らしの中で感じている「満足度」と、今後取組を進めていくにあたっての「重要度」を教えてください。

※満足度……普段の暮らしの中でどれくらい満足しているか

※重要度……今後、どのくらい優先的に力を入れて解決、改善、向上に取り組むべきか

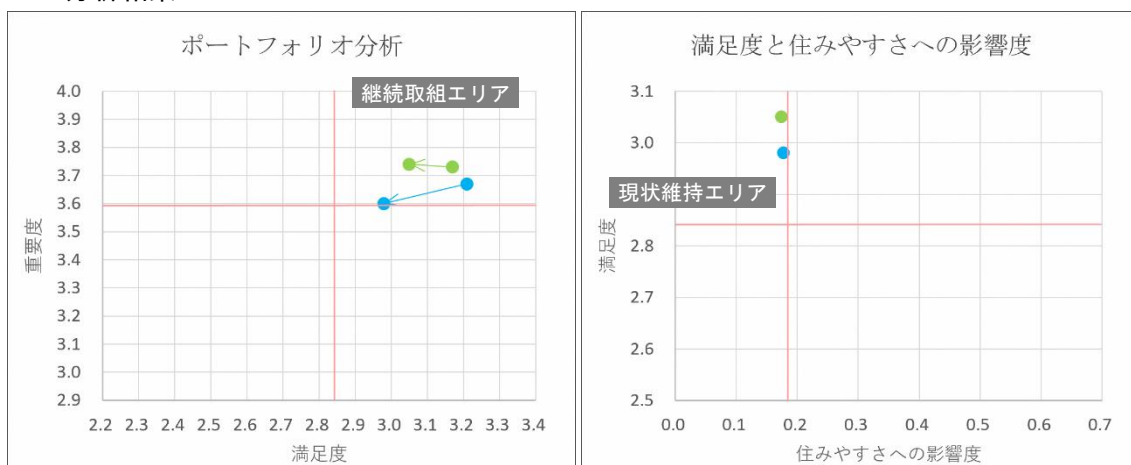
2 評価方法

5段階評価。数値が大きいほど評価が高く、数値が小さいほど評価が低い。

3 結果（平均値）

	R6 年度		R4 年度		R2 年度		H30 年度	
項目	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
● 自然環境の保全と景観向上	2.98	3.60	3.03	3.78	3.30	3.70	3.21	3.67
● 快適な生活環境の創造	3.05	3.74	3.11	3.93	3.30	3.71	3.17	3.73

4 分析結果



令和6年度に行った市民アンケートにおいて、満足度と重要度によるポートフォリオを行った結果、「自然環境の保全と景観向上」「快適な生活環境の創造」はどちらも満足度、重要度ともに平均以上であり、今後も継続して実施する必要がある取組と考えられる。

一方、満足度と住みやすさへの影響度を分析した結果、どちらも満足度は平均より高いが、住みやすさへの影響度が低い取組であることが分かった。

基本方針 1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

IV 第2次総合計画の取組実績を踏まえた今後の方向性

第2次総合計画では、豊かで美しい自然環境の次代への継承や快適な生活環境の創造を目指すとともに、環境負荷の少ないまちづくりを進めてきた。

本市の森林は、近年、森林への関心が薄れ、担い手不足や所有者不明などを背景に、荒廃森林が増加している。整備不足の森林を解消するため、令和6年度からの森林経営管理制度の着手を目標に、令和4年度に市有林でのモデル間伐を実施し、令和5年度に森林経営管理制度全体計画を策定した。

さらに、令和5年度に、森林病虫害対策として森林環境整備事業費補助金を創設し、森林整備促進のための環境を整えた。

今後は、森林経営管理制度の活用により、手入れの行き届いていない森林を適切に経営管理し、効率的・計画的な森林整備を行っていく。

地球温暖化対策の観点からは、脱炭素に向けた取組をよりいっそう進めていくため、令和3年3月に「気候非常事態宣言及び脱炭素宣言」を表明。2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指し、住宅用新エネルギー機器導入補助制度の創設や公用車としてクリーンエネルギー（電気）自動車を導入するなどした。

また、令和4年度に完成し、稼働を開始した「クリーンセンターいず」では、排ガスの濃度管理を法規制値よりも厳しい自主基準値で行い、周辺環境の保全に配慮するとともに、高効率のごみ発電システムを導入し、エネルギーを有効活用するなど、脱炭素の持続可能な社会の実現に向けた取組を推進することができた。

市全域における二酸化炭素の排出量は減少しつつあるものの、2050年カーボンニュートラルの実現に向けてはさらなる温室効果ガスの削減が必要であり、市民1人1日当たりのごみ排出量も県内市町と比較すると多い状況にある。

今後は、広報等による啓発活動を継続的に行いつつ、公共施設の建築、大規模改修等にあたっては、太陽光発電設備を積極的に設置するなど、地球温暖化対策の取組・啓発を一層強化していく。

魅力ある景観形成の観点からは、平成29年4月に屋外広告物条例を施行。広告物の改修指導を行い、周辺環境と調和したまちなみづくりに寄与した。

また、「花咲く伊豆の国推進協議会」の活動により、東京オリンピックを契機とした花咲く伊豆の国マーガレット街道、NHK大河ドラマを契機とした韮山時代劇場ひだまり広場の花壇整備など、花を活用したおもてなしが広がったほか、花咲く伊豆の国フェアの開催や花の植栽交流活動などを通じて、市民参加による花と緑にあふれた美しいまちづくりを推進することができた。

さらに、令和5年度には、狩野川河川敷に川の駅・伊豆城山を整備し、市民が水辺で憩い、にぎわえる場を創出することができた。

引き続き、伊豆の国の魅力を生かした景観づくりを促進するとともに、都市公園の維持・管理においては、防災機能やにぎわいの場づくりなど、各公園の特性に応じた活用方法を検討していく。

そのほか、基本方針1にかかる課題としては、ごみ処理手数料の見直しが挙げられる。クリーンセンターいずの稼働により、改めてごみ処理手数料を算定する必要があることから、稼働実績による処理経費等を精査し、適正なごみ処理手数料を検討していく。